

911.3

71

911.3

71



會到限定如：象進之座列之也事
 物用之者其車者不二三車也
 句以高殿之福今一雜張中四也事
 編子之行也其故也事
 心祈之行法也其故也事
 末禮乃為律法會高殿小也事
 句禮不及其會也其故也事
 一人之也其故也事
 其席之宗通也其故也事
 初心之人不可也其故也事

會席法度之古式

本式并古式



我仕るる句も須句不附るハ不立立身得
不叶あはば五定能事
一海彦己系不可立席得夏

右水件

△千句法度

雪月花 出合遠近 一句一直

吐停止

月日

△本式古式

一 面十句 毎句教句法紙揚り合をすまし

一 賦物 昔ハ毎句日取揚有一段ハ招牙二と云

一 面ノ名紙紙と云し 名紙と名紙又句去

一 季ハ不向去 但し内化乃季去ては二十句隔く
も季不也

一 月花松夢 酒竹舟烟 十句去べし

一 景物なきて之るを去りて打紙もも去りて

一 雪月花 郭云 寐、足紙、魚、鳥、

一 降物と降物打紙下様

一 聳物たるし

萃本おね

一時鳥寐覚 景相用之

一桂捨原関猿 山形用之

一季ハ二句より可持

一冬強、裏六句如無

右の外應安之新式此出之 明應元年

十二月日

此外昌隆子遠く

一丁面ハ字不若

一〇裏カドヨリ新教乃分ナド

一画ト裏ト下向少花不若

一強ノ字、托ノ句ニ三も有

一強ノ字、恋ノ句ニ三も有

一強芽生乃二句去、法ト有

一月如くて、月トアル面有

一月ニ純セルト有裏ニ存出ルト有

一宗祇、句ニ三句去ト二句ト、同面ニ三有

一吹風、同折ニ有

一宗祇、同作ニ高根ト岩根ト三句去、同面ニ有

一宗祇、同作ニ面ニ標を、裏ニ宗祇句有

△愚案

季吟

一 草木同トハ木ト木ト木ト木ト草ト打紙を編ト二ハ
 あま木ト草ノるニ句ト云草
 一 浮世も鳥ト獸虫魚此間ニ句あり
 一 生れも鳥ト獸虫魚此間ニ句あり
 一 様よ茶ふ句は句も不若
 一 初何雨は乃おふく降
 と不句は百類
 一 初何雨は乃おふく降

とさあ紙ノ句

と不句ありは百類

深うに繁紙いざありし

と基佐ノ句

△一本式會

連立十人一花ハ本トハみね

をねども後句第三具介さるるも皆

一 初乃要紙とげし次ノ間ノ置へし連立

より行へて行ふ多し紙を移る之持ふ

て表^{おもて}裏^{うら}なり

一花裏表八本なり

一月常^{つね}花^{はな}びとく七ツなり又うら^{うら}よとみても不若^{ふじやく}
ふ合^{ふあひ}ふ合^{ふあひ}ふ通^{ふと}加^か者^{もの}を人^{ひと}を無^むし不^ふ功^{こう}者^{もの}必^{かならず}く病^{びやう}く
事^{こと}心^{こころ}のきを有^ありて

表十句^{おもてじゅうく}

月雪花^{つきゆきはな} ほうとぎん名^な不^ふ 二株^{ふたぐし}是^{こゝ}

此^{こゝ} 醜^{みにく}子^こ相^あ鉄^{てつ}杆^{かん}要^{よう}

恋^{こゝろ}ハ不^ふ以^も神^{かみ}頼^{たの}ハ多^{おほ}く發^{はつ}向^{むか}よハ多^{おほ}く

右^{みぎ}出^で件^{けん}

名宗氏書くはびざし又とり習ふ時其の
要とす河一とる所まハさうとてむとび重之
心鳴くぬ為なり

一 主衆に強く香煙なり百韻は座を香煙不
切やうとては半なり心見合軒要あり

一 白し花の乃時を亭るるとて狂て持出るなり

一 白し乃花の向索ト裸せると何依者結成さるが
相違なり執事なり和句紙吟むるなり其時香

を御影之前より向てむ乃句吟むるなり
連宗は花結成の時縁張ありと云ふを云ふ

て出づるなり

一 花裏表八本なり

一 月常法おとくセツなり又うらとてみても不若
ん合ふ糸通加者老人を想し不功者必し病に
事んをみるなり

表十句

月雪花 けとぎん名不 二株是

此 醜子橋相鉄軒要

然ハ不入神釈ハ多く發句入るなり

右水件

一むう長頭丸老後み本式の遊諧あり人を死
 小はきくるとに良徳を承て承也とてくくしてすは
 かり人の良徳を見てをしく笑ふ此の良徳は
 とも目くともて指し被り何事かの笑ふやと
 ことを終らねばまに中よりさ被ら冠弁乃
 老人大故を忌むばしをきとすは終りて
 やうありといふ長頭丸泪を流ぬといふ古く
 里より本式乃連続ともよ平のあきけり
 を法どく式被を忌して席を空みたり志り
 を今も是れ被ハ何その忌むはあきけりといふ

是りり一死無さありや容易に連名とい
 合せてなくとも真行勢く有ぬしき事や
 一他ノ季も又向そを表十向ら内ハさるる
 ありぬき者る衆

ちや紙左判

審曆九己卯歲陸月上旬發行



北御堂前本屋

森田庄太郎

心齋橋筋西田屋

名倉理兵衛

舟町

清水屋

山崎仁右衛門

浪卷津書林

浪卷津書林
名倉理兵衛
山崎仁右衛門
清水屋
舟町

三十三

